

## 2017年度 シラバス情報表示画面

科目コード : 93214 単位数 : 2

科目名	外国史A (西洋史)	科目責任者	西田 哲史
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC244		

## ■ 科目概要

この授業では、21世紀という現代に生きる私たちが、西洋史上の各時代から学び取るべき事柄を中心に話を進めていきます。具体的には、西洋文明の源流といわれる古代ギリシア・ローマの時代からベルリンの壁崩壊に象徴される冷戦の終焉にいたる大変長期にわたる時代を扱います。それは、たとえ時代が変わり、ところが変わっても、古代は古代なりに、中世は中世なりに、歴史は私たちにたえず、どう生きるべきかのヒントを与えてくれるからであります。各時代に人々が何を考え、行動していたかということを読みながら、自分とは異なる人々の経験に思いを馳せ、歴史を学ぶうえで大切な「他者」に対する「想像力」を鍛えていきたい。

## ■ 到達目標

外国史を学ぶとは、自分の「知らない」世界や人々の歴史、つまり「他者」の経験を学ぶことにほかならなりません。そこで大事なのは、「知らない」をそのままにしないことです。「自分には経験がないからわからない」という前に、「想像力」を働かせてみることです。そうした積極的な態度こそが、「興味がない」とか「無関心」だとか、しらけた気持ちを払拭します。歴史学において「想像力」を鍛えることがいかに大切か。この点を学んで欲しいと同時に、高校世界史を踏まえたスタンダードな教養と知識の習得を目指します。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章 第1節～第3節	西洋の歴史や文化の特色が生み出されたと言われる、古代ギリシアとローマの時代について学習します。この回では、ギリシア・ポリス（都市国家）の歴史を、とくにアテネやスパルタといった代表例を通してみていきます。またギリシアのポリスと同様に都市国家として出発した（共和制）ローマについて概観します。
第1章 第4節～第5節	グラックス兄弟の改革が挫折して以後、ローマ社会は「内乱の1世紀」と呼ばれる、混乱の時代に突入しますが、オクタヴィアヌスにより混乱に終止符が打たれると、帝政ローマの時代が始まります。この回では、ローマ帝国の盛衰と帝国におけるキリスト教の発展について学習します。
第2章 第1節～第3節	古代地中海世界は、ゲルマン人の大移動（375年）のなかで大きく動揺し、西ローマ帝国の滅亡（476年）をもって崩壊しました。それから数世紀の間に、ヨーロッパの東西に独自の性格をもつ文明世界が誕生しました。ここでは、とくに西ヨーロッパにおける中世封建社会の形成過程を学習します。
第3章 第1節～第4節	10～11世紀ころから封建社会は安定し、ヨーロッパ全体が秩序のよく整った平和な社会になり、12～13世紀には盛期中世といわれる封建王政の時代を迎えます。この回では、この盛期中世以後の封建危機の時代について、農村の変化・都市経済の進展、教会（カトリック）勢力の衰微などを通して学習します。
第4章 第1節～第2節	15～16世紀のヨーロッパは、中世カトリックの伝統的世界観が大きく揺らぎ、その後の世界史に大きな影響をもつ「ルネサンス・新航路の発見・宗教改革」という3つの潮流がヨーロッパ史を彩った時代です。この回では、まず、ルネサンスと新航路の発見が相次いだ大航海時代について学習します。
第4章 第3節	宗教改革はルネサンスとならびヨーロッパの近代精神の根源を形作った運動でありました。今回は、16世紀のドイツを舞台に行われたルターの宗教改革、スイスのカルヴァンの改革、さらにイギリスにおける宗教改革について学習します。
第5章 第1節～第3節	17世紀前半は、ヨーロッパの全般的（あるいは一般的）危機の時代といわれます。この回では、ピューリタン革命、名誉革命とつづくイギリスの内乱と混乱、ドイツにおける三十年戦争などの動揺について、さらにスペインからの独立後、海軍力強化を背景に経済的繁栄を謳歌したオランダについて学習します。
第5章 第4節～第6節	前回につづき、この回では、まず17世紀前半が「ヨーロッパ全般的危機の時代」と呼ばれる所以であるスペインでのカタルーニャ（カタルニア）の反乱、フランスでのフロンドの乱（貴族の反乱）について概観します。つづけて、17世紀後半フランスで出現したルイ14世下の絶対王政の時代について学習します。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第6章 第1節～第5節	絶対王政が盛んになった17世紀後半以降、これを背景にしてバロック・ロココなど華やかな宮廷文化・貴族文化が形成され、学問でも近代ヨーロッパの思想・科学の基礎が確立しました。この回では、17世紀後半以降に開花した西洋宮廷文化と啓蒙主義の時代を取りあげて、学習します。
第7章 第1節～第3節	この回では、欧米社会における近代社会の発展・成長という側面を、「市民革命」という概念でとらえられることの多いアメリカ独立革命とフランス革命、さらにこれら「市民革命」と同時期にイギリスで展開していた「産業革命」と呼ばれる工業化過程を通して学習します。
第8章 第1節～第3節	19世紀のヨーロッパは、フランス革命と産業革命により生み出された自由主義や資本主義経済が大きく進展すると同時に、近代諸科学を発展させ、世界をリードし支配するなど、世界史におけるヨーロッパの全盛時代を築きました。この回では、こうした状況について学習していきます。
第9章 第1節～第4節	第1次世界大戦は帝国主義諸国間の対立だといわれています。帝国主義とは、資本主義列強が非ヨーロッパ地域を自国の植民地や勢力圏に組み入れようと競合し、対外膨張政策を展開した政治・経済・社会の動向のことをいいます。この回では、帝国主義がもたらした第1次世界大戦について学習します。
第10章 第1節～第4節	第1次世界大戦後の国際秩序は、ヨーロッパにおけるヴェルサイユ体制、太平洋地域におけるワシントン体制によって維持されていましたが、世界恐慌以降、国際協調体制は崩壊し、世界は新たな世界大戦へと突入していきます。この回では、その第2次世界大戦について、その原因も含め学習していきます。
第11章 第1節～第4節	2つの世界大戦を経て、ヨーロッパはそれまでの世界の中核的な地位を失い、単なる世界の一地域となりました。この回では、戦後のヨーロッパと世界の関わりについて、「冷戦」、「ヨーロッパ統合」、「デタント（緊張緩和）」などをキーワードとして21世紀初頭までの戦後60年間を概観していきます。

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	試験は与えられたテーマに関する論述になりますが、学習内容をきちんと理解し、歴史用語が正しく使えているかなど、高校世界史を踏まえた基礎的な理解を問います。
レポート	レポートの作成にあたっては、そのレポート課題が何を要求しているかをよく考えて作成してください。その際、教科書の記述だけでは不十分ですので、各自が調べ、必ず参考文献（こちらが指定する参考文献以外でも構いません）を読んだうえで、論述してください。参照・引用文献についてはレポートの最後に、著者・『書名』・出版社・出版年を必ず明記してください。

## ■ 評価方法

- 科目試験：70%
- レポート：30%

## ■ 教科書

**書名：**外国史（西洋史）  
**著者名：**浅田實  
**出版社名：**創大通信教育部  
**出版年：**  
**版：**  
**刷：**  
**ISBN：**

## ■ 参考書

- ・著者名：服部良久／南川高志／山辺規子編著
- ・書名：大学で学ぶ西洋史[古代・中世]
- ・出版社：ミネルヴァ書房
- ・出版年および版：2006年・初版
  
- ・著者名：小山哲／上垣豊／山田史郎杉本淑彦編著
- ・書名：大学で学ぶ西洋史[近現代]

- ・ 出版社：ミネルヴァ書房
- ・ 出版年および版：2011年・初版

## ■履修上のアドバイス

---

学習に際しては、教科書の記述だけでは不十分ですので、学習内容を補足するうえでも、必ず参考書（上にあげた以外の参考書でも構いません）を用意して、毎回の学習部分に該当する章や節を読むなどして、知識の習得に励んでください。

## ■自習時間

---

レポート1課題につき、参考文献の熟読、要旨をまとめ、論述するという作業を含めると、16～20時間ほど必要です。科目試験は出題範囲が広範囲になりますので、試験準備のためには、参考書の熟読などを含め、最低20時間の学習が必要です。

## ■担当者のプロフィール

---

[出身大学] 創価大学（学士・修士）／（ドイツ）ビーレフェルト大学（Dr.phil: 歴史学博士） [所属] 創価大学経済学部 [専門分野] 現代ドイツ社会経済史 [担当科目] 西洋経済史、現代経済史、歴史Ⅰ（現代史）、地域研究Ⅱ（ドイツ研究）等 [主著] Satoshi Nishida, Der Wiederaufbau der japanischen Wirtschaft nach dem Zweiten Weltkrieg: Die amerikanische Japanpolitik und die ökonomischen Nachkriegsreformen 1942-1952, Stuttgart 2007.